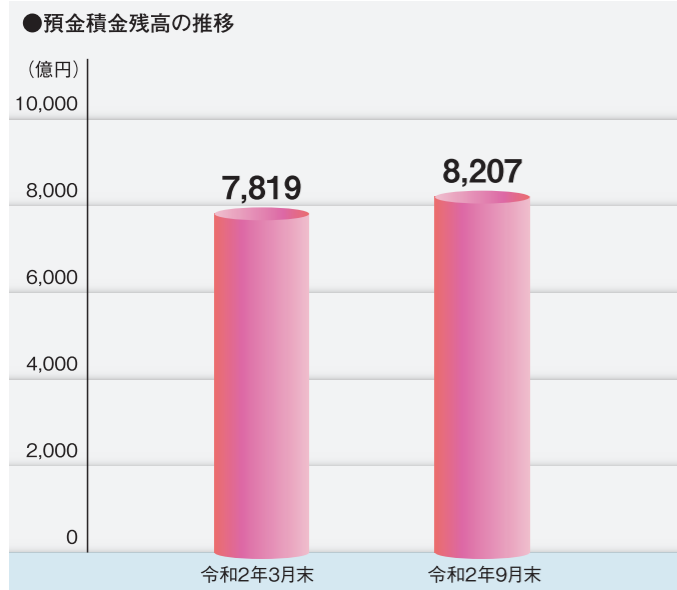


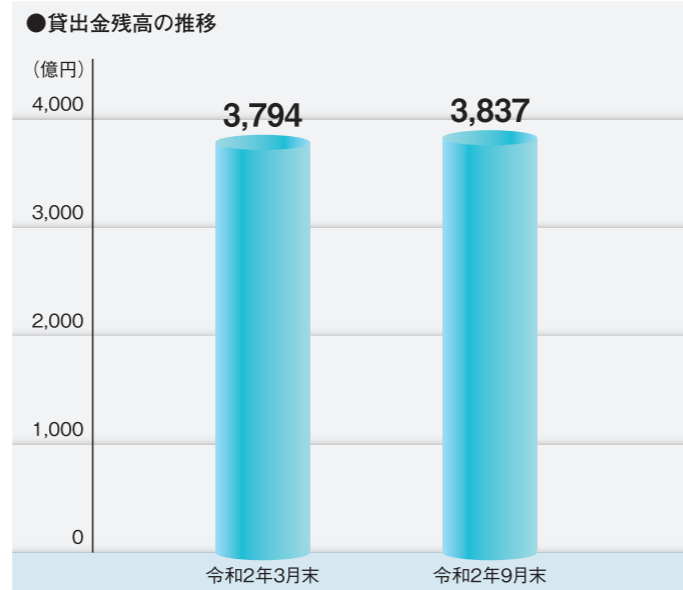
預金積金の状況

令和2年9月末の預金積金残高は、令和2年3月末に比べ、388億27百万円増加し、8,207億55百万円となりました。これは、年金や給与振込の増加に加え、新型コロナウイルス関連の各種給付金や対策関連融資金が歩留まりしたことによるものです。



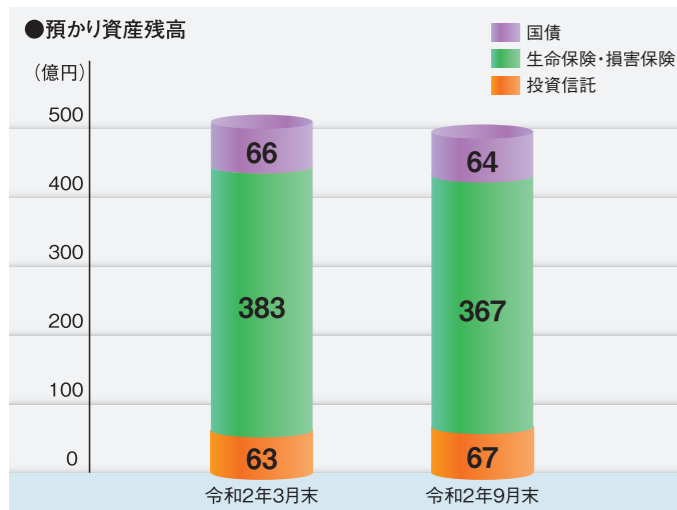
貸出金の状況

令和2年9月末の貸出金残高は、令和2年3月末に比べ、42億90百万円増加し、3,837億18百万円となりました。これは、公金貸出の減少やコロナ禍を受けて個人向けローンが減少した一方で、事業者向けコロナ関連融資が伸びたことによるものです。

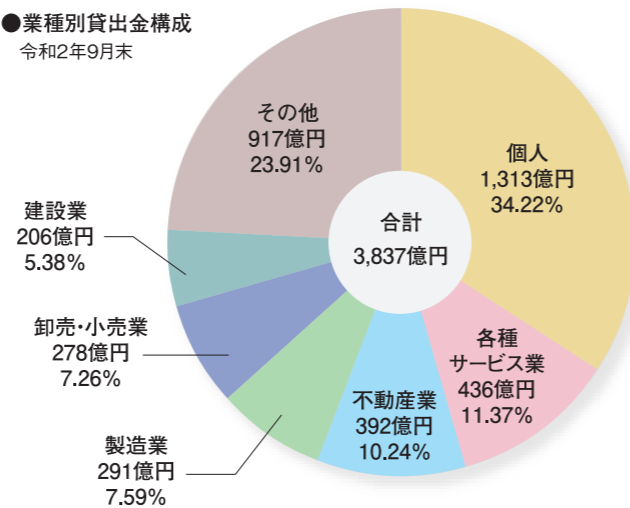


預かり資産の状況

令和2年9月末の預かり資産残高は、令和2年3月末に比べ、13億24百万円減少し、499億63百万円となりました。これは、個人年金保険の期間満了に伴う支払いや、個人向け国債の償還によるものです。

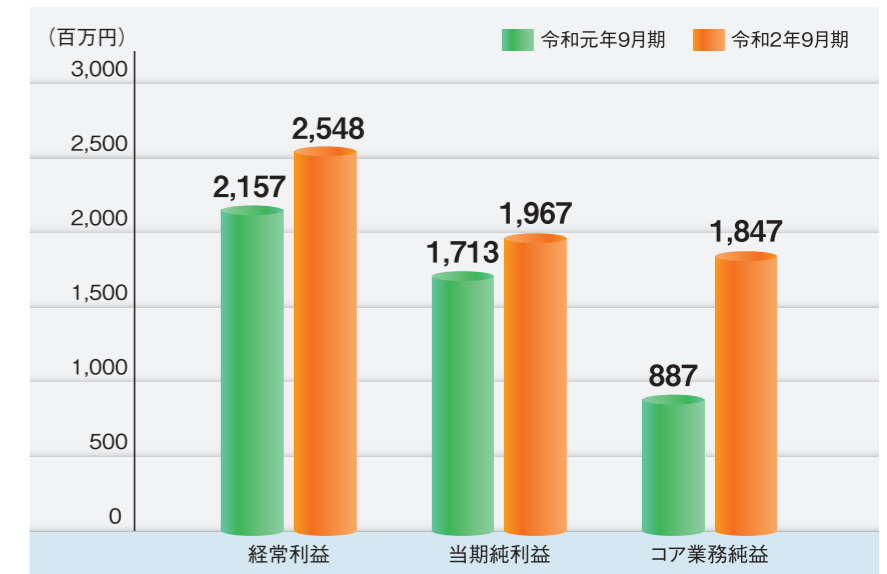


●業種別貸出金構成
令和2年9月末



損益の状況

経常利益は、有価証券利息の増加に加え、経費や有価証券関係の売却損等が減少したことから、前年同期比3億91百万円増加し25億48百万円となりました。その結果、当期純利益は前年同期比2億53百万円増加し19億67百万円となりました。また、コア業務純益は資金利益の増加に加え経費が減少したことから、前年同期比9億60百万円増加し18億47百万円となりました。



有価証券の時価情報

有価証券の運用に際しては、適切な管理のもと、国内外の国債を中心に安全性・収益性・流動性を重視した運用を行っております。

●その他有価証券

	令和2年3月末					令和2年9月末				
	貸借対照表計上額	取得原価(償却原価)	評価差額	うち益	うち損	貸借対照表計上額	取得原価(償却原価)	評価差額	うち益	うち損
株式	1,029	517	511	525	13	1,144	481	663	664	1
債券	149,246	145,630	3,615	4,072	456	171,026	167,763	3,262	3,759	496
その他	77,197	67,323	9,874	9,993	119	72,516	65,809	6,707	6,760	52
合計	227,474	213,472	14,001	14,590	589	244,687	234,053	10,633	11,183	550

(注) 1.貸借対照表計上額は期末日における市場価格等に基づいております。
2.上記の「その他」は、投資信託等です。
3.時価を把握することが極めて困難と認められる有価証券は本表には含めておりません。

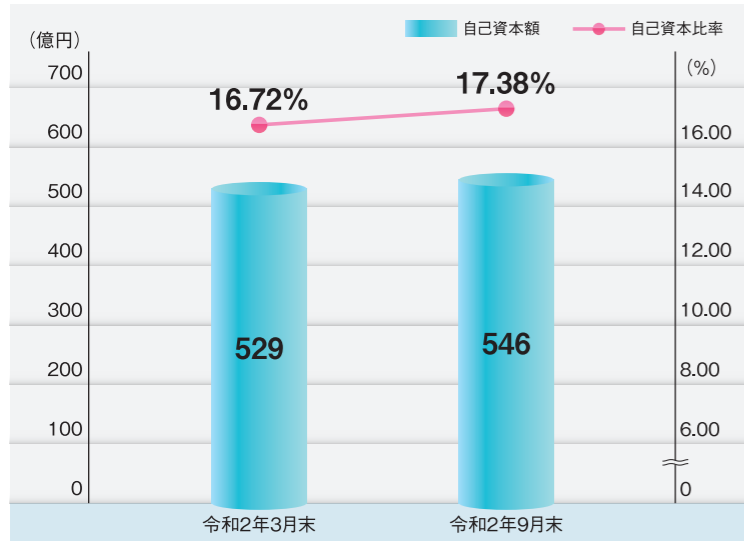
●満期保有目的の債券

	令和2年3月末					令和2年9月末				
	貸借対照表計上額	時価	含み損益	うち益	うち損	貸借対照表計上額	時価	含み損益	うち益	うち損
債券	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
その他	9,000	8,664	△335	1	336	7,800	7,464	△335	11	347
合計	9,000	8,664	△335	1	336	7,800	7,464	△335	11	347

(注) 1.時価は期末日における市場価格等に基づいております。
2.上記の「その他」は、外国証券です。

自己資本の状況

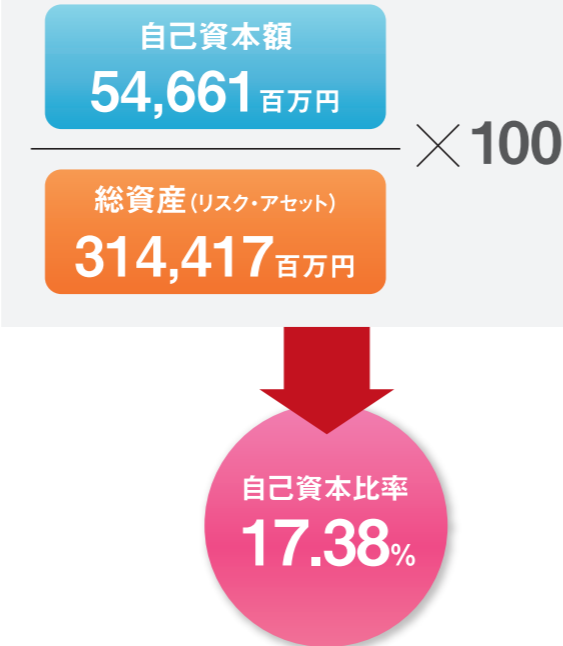
自己資本額は当期純利益の積み上げにより、令和2年3月末に比べ16億90百万円増加し546億61百万円となりました。また、自己資本比率は令和2年3月末に比べ、0.66ポイント上昇し17.38%となり、国内基準の4%を大きく上回る高い水準を維持しております。



「リスク・アセット」

金融機関が保有する資産のうち、リスクを有する資産（貸出金や有価証券など）を、リスクの大きさに応じて掛目を乗じ、再評価した資産金額のことです。

●自己資本比率の算出方法



●自己資本の構成に関する事項

項目	令和2年3月末	令和2年9月末
コア資本に係る基礎項目 (1)		
普通出資又は非累積的永久優先出資に係る会員勘定の額	52,600	54,541
うち、出資金及び資本剰余金の額	4,542	4,542
うち、利益剰余金の額	48,108	49,999
うち、外部流出予定額 (△)	76	—
うち、上記以外に該当するものの額	25	—
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	600	342
うち、一般貸倒引当金コア資本算入額	600	342
コア資本に係る基礎項目の額 (イ)	53,201	54,884
コア資本に係る調整項目 (2)		
無形固定資産の額の合計額 (モーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く)	112	93
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るもの以外の額	112	93
前払年金費用の額	117	128
コア資本に係る調整項目の額 (ロ)	229	222
自己資本		
自己資本の額 [(イ)-(ロ)] (ハ)	52,971	54,661

項目	令和2年3月末	令和2年9月末
リスク・アセット等 (3)		
信用リスク・アセットの額の合計額	301,106	298,835
資産 (オン・バランス) 項目	298,408	295,876
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額	△2,630	△2,630
うち、他の金融機関等向けエクスポージャー	△2,630	△2,630
オフ・バランス項目	2,697	2,958
オペレーショナル・リスク相当額の合計額を8%で除して得た額	15,581	15,581
リスク・アセット等の額の合計額 (ニ)	316,688	314,417

自己資本比率

自己資本比率 [(ハ)/(ニ)]	16.72%	17.38%
------------------	--------	--------

(注) 1. 単体自己資本比率の算出方法を定めた「信用金庫法第89条第1項において準用する銀行法第14条の2の規定に基づき、信用金庫及び信用金庫連合会がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準 (平成18年金融庁告示第21号)」に基づき算出しております。なお、当金庫は国内基準を採用しております。
2. 令和2年9月末の「オペレーショナル・リスク相当額を8%で除して得た額」は、令和2年3月末で算出して得た額を計上しております。

不良債権の状況

金融再生法上の不良債権は、令和2年3月末に比べ72百万円増加し、205億38百万円となりました。また、総与信に占める割合である不良債権比率は、5.33%となりました。

上記の不良債権は、担保・保証、貸倒引当金等によって169億11百万円が保全されており、保全率は82.34%となっております。また、保全されていない部分につきましては、十分な自己資本を備えており、健全性を確保しております。

●金融再生法に基づく開示債権

債権の種類	令和2年3月末					
	開示残高 (A)	比率 ※1	担保・保証等による回収見込み額 (B)	貸倒引当金 (C)	保全率 ※2 [(B)+(C)]/(A)	引当率 ※3 (C)/(A)-(B)
金融再生法上の不良債権	20,465	5.37%	10,184	6,766	82.82%	65.81%
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	8,108	2.12%	3,563	4,544	100.00%	100.00%
危険債権	11,313	2.97%	6,167	2,134	73.37%	41.47%
要管理債権	1,043	0.27%	454	86	51.81%	14.65%
正常債権	360,358	94.62%	—	—	—	—
合計	380,824	100.00%	—	—	—	—

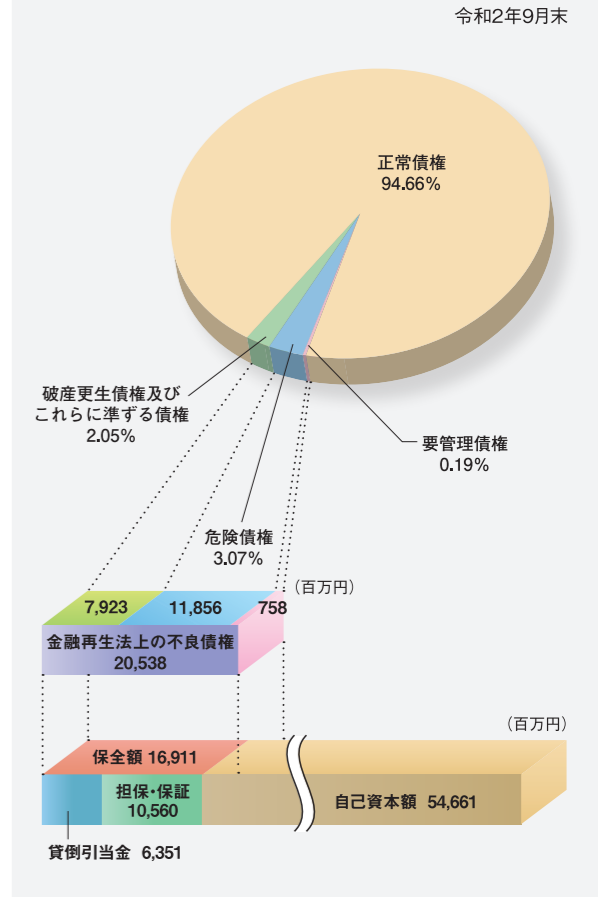
債権の種類	令和2年9月末					
	開示残高 (A)	比率 ※1	担保・保証等による回収見込み額 (B)	貸倒引当金 (C)	保全率 ※2 [(B)+(C)]/(A)	引当率 ※3 (C)/(A)-(B)
金融再生法上の不良債権	20,538	5.33%	10,560	6,351	82.34%	63.65%
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	7,923	2.05%	3,472	4,450	100.00%	100.00%
危険債権	11,856	3.07%	6,733	1,837	72.29%	35.87%
要管理債権	758	0.19%	353	63	54.93%	15.58%
正常債権	364,610	94.66%	—	—	—	—
合計	385,149	100.00%	—	—	—	—

※1 比率は合計 (総与信) に占める割合を示しています。

※2 保全率は、債権総額に対するカバー率を示しており後記により算出されます。保全率 = (担保・保証等による回収見込み額 + 回収不能に備え用意している貸倒引当金) ÷ 債権額

※3 引当率は、無担保残高に対する引当額の割合を示しています。

●金融再生法に基づく資産構成及び保全状況



「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」

破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権です。

「危険債権」

債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取ができない可能性が高い債権です。

「要管理債権」

自己査定において要注意先に区分された債務者に対する債権のうち、「3ヵ月以上延滞債権」及び「貸出条件緩和債権」に該当する貸出金です。

「正常債権」

債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がない債権であり、「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」、「要管理債権」以外の債権です。

新規事業・技術開発などへの支援

● 創業への支援

創業を希望される方や創業後間もない方の資金面・経営面等、様々な経営課題の解決に向けて積極的に取り組んでおります。

令和2年度上期創業関連融資取扱実績…24件／362百万円

● 補助金・助成金の申請支援への取組み

認定支援機関として、お客さまに国や県の各種補助金・助成金をご案内するとともに、申請から具体的な事業展開までのサポートを行っております。

令和2年度上期実績……申請63件／85百万円
……採択30件／17百万円

● 成長分野への取組み

医療・介護・福祉・農業・再生可能エネルギー等を成長分野と位置づけ、これらの分野に進出しようとする企業や、事業を拡大しようとする企業に対し、積極的なサポートを行っております。

令和2年度上期実績……90件／1,844百万円

経営改善に向けた取組み

● 経営改善を支援

中小企業診断士等の資格を有する職員が営業店と連携し、お取引先である中小企業の経営改善に向けた取組みを行っております。

令和2年度経営支援対象先／94先

● 経営改善計画の策定

福井県中小企業再生支援協議会、福井県経営改善支援センター等の外部機関とも連携し、中小企業の経営改善に向けた計画書策定に取り組んでおります。

令和2年度上期実績……経営改善計画策定2先

海外展開支援への取組み

● 海外ファイナンスの実施

中国に現地法人を有する取引先に対し、現地銀行からの資金調達を行うにあたり、当金庫2先目のスタンバイL/C(信用状)を発行し、現地での資金調達の支援に取り組みました。

令和2年度上期実績……発行1先

新型コロナウイルス感染症 関連融資への取組み

● 新型コロナウイルス感染症関連融資

「新型コロナウイルス感染症特別融資」を創設する等、新型コロナウイルス感染症拡大により影響を受けた事業者の資金繰り支援に取り組んでおります。

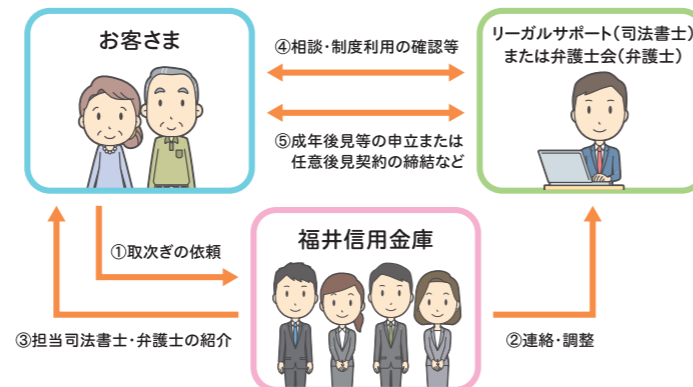
令和2年度上期実績……1,600件／22,917百万円

福井弁護士会との「成年後見 制度取次ぎサービス」の開始

● 成年後見制度取次ぎサービス

令和2年8月3日より、「成年後見制度取次ぎサービス」を、公益社団法人成年後見センター・リーガルサポートに続き福井弁護士会とも締結し、取次ぎを始めました。

これまで以上に、成年後見制度に関するご相談・お問い合わせに対し、幅広くお応えできる体制を構築いたしました。



90周年記念事業

おかげさまで、当金庫は令和2年8月15日に創立90周年を迎えました。これを記念して下記の事業を行いました。

● ホームページのリニューアル

当金庫のホームページを全面リニューアルいたしました。スマートフォン等でも快適に閲覧できるようにレスポンシブデザインを取り入れるとともに、より見やすく、使いやすいようにページ構成やデザインの見直しを行っております。



● 記念商品の発売

これまでのご愛顧に感謝の気持ちをこめて、特別金利と「10年カレンダー」をセットにした「創立90周年記念定期預金「ゆかり」」を発売いたしました。



Fukushin Big Advance の取扱開始

地域中小企業の支援のため、令和2年6月1日より株式会社ココベリが提供する経営支援プラットフォーム「Big Advance」の取扱いを開始しました。全国の金融機関が連携して、それぞれの地域企業が抱える経営課題にワンストップで応えるとともに、大手企業とのオープンイノベーションにより、地域から生まれる新たな技術やサービス、未来の新規事業創出の実現を支援します。

